

水環境・湖沼（４）（１-B-15-2～1-B-16-3）

セッション[水環境・湖沼（４）]では、異臭味，とくにカビ臭発生の原因とその実際の水源での抑制対策に関するテーマがまず発表され，前半では環境因子の特定化について詳細な調査が展開された。後半の発表では，具体的なジェオスミンの抑制対策として低層部の循環曝気による好気化の証明とその抑制の有効性についての報告があった。

藍藻溶藻細菌の特性に関する発表では，カビ臭産生藍藻を溶解する細菌を見出しその特性を検討したものであり，実際の水環境での応用の可能性を見出したことが注目された。また，浅い富栄養化ため池の特徴に関する課題発表では，溶存酸素と一次生産者の関係を明瞭化している。

一方，湖沼におけるダイオキシン類の分布特性に関する発表では，混合曝気が大きな濃度移行の因子になることを見出している。今後，汚染物質のモニターリング手法戦略として意義深いものと考えられる。湖沼などで発生するアオコなどプランクトンの発生・変動のプロセスを解明する研究では，表面電位のモニターが有効であることが示され，興味深い期待される発表であった。

本セッションでは，全体として既往の汚染原因生物，原因物質の特定から一步ステップアップしたターゲット因子モニター手法の確立を目指す研究傾向がみられた。

（筑波大学大学院・生命環境科学研究科 杉浦 則夫）